

ロック法座



陶

西岸寺
青木彩子さん 康平さん

移住のリアルを伝えたい

「特別、能力が秀でていなくても移住はできると伝えたい」と語るのは山口に全く縁がなかった康平さん。山口での暮らしは精神的に楽だと言い「意識はしていなかったが東京の暮らしに疲れていたことが山口に住み始めて分かった」と振り返る。

満員電車での通勤は当たり前のようにしていたが、山口で豊かな自然を目にしながら車や自転車で移動し、開放感を満喫している。

「地域の人々の助けを受けて試行錯誤している。何をすればいいかを模索している自分だからこそ、移住者の不安や悩みが分かるので話相手になれる。力になりたい」と笑顔を見せる。

寺でロック

県道61号から少し奥まったところに位置する浄土真宗の伝統ある寺に響くのはロック調にアレンジされた仏教讃歌。副住職の彩子さんのボーカルと夫の康平さんのギターがこだまする。



ロック法座



寺の本堂

得意な音楽を通じて門徒に楽しんでもらおうと始めた。康平さんは「当初は受け入れてもらえるか不安だったが、高齢の門徒の方々もテンポの早い激しい音楽にノってくれる」と喜ぶ。

型破りなアイデアで新しい寺へ

いろんな人が出入りする拠り所のような寺を目指してさまざまな企画を2人で考えている。かつて西岸寺は日曜学校があったが近年は、門徒も減ってきたという。インスタグラムを開設し、寺の日々の情報発信に力を入れる。今後は猫の譲渡会や子ども食堂の開催、アパレルグッズ販売、ガチャの設置をやってみようとアイデアを膨らませている。

二人が暮らす離れに所狭しと並ぶレコード、フィギュア、アイドルグッズからは豊かな着想の源泉が垣間見えた。「陶といえば西岸寺という存在になりたい」と意気込む型破りな2人が作る陶地域の新しい寺の形に目が離せない。



多趣味な離れの風景

テレワークと副住職の二刀流

彩子さんは現住職、弘之さんの娘。2022年に寺を継ぐために夫婦で東京から移住した。

彩子さんは現在も東京の出版社に在籍している。コロナ禍がきっかけでテレワークが可能となり、寺の本堂に近接する自宅で漫画雑誌のデザインや、ロゴ制作に取り組んでいる。「会社とのやり取りは支障がなく行えている」と話す。

寺を継ぐことに不安はあったが、やるしかない、女性では珍しい住職を目指すことに。弘之さんと康平さんの助けを受け精進する日々を過ごす。



テレワーク風景



西岸寺外観

所 山口市陶4781



Instagram